



第24回日本肘関節学会学術集会
ランチョンセミナー2

バイオメカニクスからみた 人工肘関節の 問題点と今後の展望

日時

2012年
2月18日(土)
12:00~13:00

会場

ホテルニューオータニ長岡 第2会場(2F 白鳥 西中)
〒940-0048 新潟県長岡市台町2丁目8番35号(長岡駅東口)
TEL:0258-37-1111(代表) FAX:0258-37-1115

座長

別府 諸兄 先生

聖マリアンナ医科大学
整形外科学講座代表 教授

演者

稲垣 克記 先生

昭和大学医学部整形外科主任教授

【認定単位】

日本整形外科学会専門医資格継続単位 1単位

6. リウマチ性疾患・感染症

9. 肩甲帯・肩・肘関節疾患

日本手外科学会認定単位

1単位

共催 第24回 日本肘関節学会学術集会
三笠製薬株式会社

バイオメカニクスからみた 人工肘関節の 問題点と今後の展望



演者

昭和大学医学部整形外科主任教授

稲垣 克記 先生

近年、人工肘関節はそのデザインと素材および手術手技が著しく進歩した分野のひとつである。年齢や肘関節の骨質や骨欠損・変形の程度によりまた、不安定性と拘縮の程度により Linked type (結合型) または Unlinked type (非結合型) が選択される。まだ未解決の問題点も残されているが、現時点で15年以上の安定した成績が得られるようになった。人工肘関節のデザインは Kinematics, Laxity, Intrinsic Stability という3つの側面から評価すべきであり各人工肘関節のデザインと特性を理解した上で機種を選択と手術の計画を立てるべきである。今回は、これら人工肘関節のデザインとバイオメカニクスを中心にRA肘への治療戦略を主に紹介しTEAの手技上のポイントと成績についても述べる予定である。

略歴

昭和59年	昭和大学医学部卒業、同整形外科大学院入学
平成6年	昭和大学医学部整形外科学教室講師
平成9年～11年	米国 Mayo Clinic (Rochester, Minnesota) 留学
平成20年	昭和大学横浜市北部病院准教授、診療科長
平成21年	昭和大学医学部整形外科教授

現在に至る